

平成26年12月1日

現代教養コース教育指導担当者会議メモ

1. 開催の趣旨について（神子副学長）

教育指導担当者会議については、学習案内16ページに記載されております。それぞれのゼミ担当教員には、アドバイザー教員として学生の学業・生活面での指導をしていただくことになっていきますが、具体的な問題解決のため、「教育指導担当者会議」を組織することになっています。この会議は、12月は来年度の演習科目を担当する教員へのガイダンスとして実施し、3月にはFD活動の場として開催します。

ここでは、現代教養コースの現状についてご説明させていただき、来年度にゼミを担当される際の参考にしていただければと思います。

2. 平成25年度（今年度）の授業等の状況について（大橋）

今年度の授業の実施について、担当の先生が授業時間にいない例が数件ありました。休講の場合は、LCが基本になりますので、授業でアナウンスのみとしないこと。また、オムニバス科目については、担当者間での連絡を緊密に行っていくことが重要です。

⇒（参考）開放科目の状況（25年度前期355件、後期348件）

（26年度前期451件、後期395件）

（1）各種ガイダンスの状況について（大黒学生生活委員）

例年、入学式後の新入生・編入生向けガイダンスがあります。教養演習の先生方には、3日目に演習紹介をお願いすることになります。

また、新入生同志の親交を深めるため、合宿ガイダンスを開催しています。来年度は、4月11日（土）と4月12日（日）に、岳温泉で合宿ガイダンスを開催する予定です。教養演習の先生方には、このときの引率をお願いすることになりますので、ご承知おきください。詳細は、後ほど学生課からご連絡がある予定です。

（2）演習ガイダンスについて（大橋）

11月下旬から12月上旬に1・2・3年生を対象にガイダンスを行います。

1年生には11月下旬の教養演習（7時限）の時間をお借りして、基礎演習・モデル選択ガイダンスを行います。学生参加の呼びかけをお願いいたします。

また、2年生には基礎演習（7時限）の時間をお借りして、3年次に所属するための演習ガイダンスを行います。12月上旬にありますので、事前にシラバス作成依頼及び当日の説

明をお願いすることになります。

なお、3年生には演習（7時限）の時間をお借りして、法政策モデル及びコミュニティ共生モデルに所属する学生は4年次に指導教員が変わりますので、事前にシラバス作成依頼及び当日の説明をお願いすることになります。

（3）専門科目配置等での問題点（教務委員）

- ・時間割にモデル間・曜日間の偏りが発生しないよう、工夫が必要です。
- ・学生からは、「選択できるメニューが少ない」との指摘があります。早い段階で現代教養の科目を取り尽くしてしまい、昼の科目を取る学生が多数います。

（4）学生からの要望・意見

- ・モデル間の違いの解消。
- ・5時限目や土曜日の開講科目を増やしてほしい。
- ・インターンシップをやってみたいという希望はある。周囲の学生を見ても、アルバイトの者が多く、これから就職を考えている人が沢山いるようだ。

3. アドバイザー教員の役割について（教務委員）

アドバイザー教員の方には、学習上の指導から学生生活上の悩み相談まで、主にゼミ生のサポートをお願いすることになります。現代教養コースでは、就業上の悩みや家庭の悩みなど、夜間主特有の相談があります。最近は、卒業後に新しい進路（就職）を考える人が増えてきています。

アドバイザー教員の方には、制度上の手続きに絡んで様々な対応をお願いしています。

（1）転モデル

ゼミ生がモデルの変更（転モデル）を希望するときに、アドバイザー教員による面談を課しています。

（2）長期履修学生制度

学生が長期履修期間を設定したり、変更・延長する際に、指導教員の承認を得ることになっています。（学習案内 16、71～73ページ参照）

（3）休学・退学

学生が休学や退学を希望するときは、事前に指導教員の面談を受けるよう勧めています。

4. 現代教養コースのカリキュラムについて（教務委員）

現代教養コースのカリキュラムの特徴としては、できるだけ選択の自由度を高めて、昼の学生よりも自由選択領域の要卒単位が大きくなっていることが挙げられます。

他には、情報教育科目が必修ではないこと、語学に関しては、英語または非英のどちら

か片方で要卒単位を満たせること、なども昼間の学生と異なる点です。

一方、少ない科目数で自由度を高めるために、現代教養科目と専門科目との間で、相互に読み替え可能な科目が設定されているなど、現在の取得単位の状況を確認するのは、大変難しくなっています（学習案内 33 ページ参照）。

そこで、教務課の窓口では、「現在どのくらい単位を取得しているか」また、「要卒単位に達するまでには、あとどのくらい単位を取得すれば良いか」を確認するためにサポートしています。学生から相談があった際は、教務課の窓口へ誘導していただければと思います。

5. 演習科目改善のためのアンケートについて（教務委員）

例年、12 月にその年度の演習担当教員にアンケートをお願いします。その結果を 3 月のこの担当者会議時にお伝えし、参考にさせていただきます。

6. Q & A （大橋）

Q 1：ゼミの教室が例年、S 棟の教室になっているが、最初から演習室に設定できないか？

A 1：時間割確定前に、各担当の先生に教室を確認する機会を設けます。その際にご指定いただければ、最初から演習室を設定いたします。

Q 2：教養演習のクラスは、どのように調整を行うのか？

A 2：新入生ガイダンスの際に、教養演習の各担当の先生からご説明いただき、それをもとに登録票を提出させます。多くの場合、よほど偏りが無い限り調整は行いません。偏りがある場合は、自主的な異動を促した上で、抽選を行います。

Q 3：推薦入試の合格者に対して、事前指導課題が出されるとのことだが、添削指導を行うのか？

A 3：事前指導課題は、自主的な学習を促す目的のみに使用しますので、添削指導や採点は行いません。また、入学後の成績には影響しません。

平成 27 年 3 月 2 日

平成 26 年度現代教養コース「教育指導担当者会議」メモ

日 時：平成 27 年 3 月 2 日（月） 12:00～12:50

場 所：経済経営学類棟 大会議室

参加者：神子副学長、

【26 年度担当者】（教養演習）鶴巻教員、中里教員、上野山教員、（基礎演習）中村（勝）
教員、（専門演習）朝賀教員、【27 年度担当者】（教養演習）高橋（優）教員、西田教員、（基礎演習）水澤教員、今尾
教員、長谷川教員、中村（勝）教員、（専門演習）阿内教員、加藤（奈）教員、
中里教員、徳竹教員 計 13 名【オブザーバー】三宅教務委員、大黒学生生活委員、丸山総合教育研究センター教員、高
森総合教育研究センター教員、高橋教務副課長、大橋教務課員、岩下教務課員、
長谷川教務課員

1. 神子副学長より、平成 26 年度夜間教育実施大学学部長・第二部主事会議の内容について、他大学の例を上げ、報告があった。
2. 神子副学長より、「演習科目の改善のためのアンケート」結果について、資料に基づき報告があった。なお、アンケートの記述について、演習毎にした方が良いとの意見があった。
3. 高森総合教育研究センター教員より、「卒業時アンケート」の結果について、資料に基づき各項目別に報告があった。
 - ・学類との比較については、集計次第知らせてほしいとの意見があった。
4. 今年度の演習科目担当者より、意見・要望等が出された。
 - ・基礎演習を担当して、学習能力の低下が目についた。
 - ・社会人を含んでの授業は雰囲気良かった。
 - ・教養演習を担当して、文章の書き方などの支援が必要と思われる学生がいた。
 - ・福島大学の学生としての意識が高い学生とそうでない学生がいる。
 - ・クラスは少ないが教養演習の人数調整は差が出ないようにすることが必要ではないか
 - ・授業アンケートの中に、改善のためのアンケートなのにそうでないものがあった。
5. その他
教務課員より、休講にする場合は必ず教務課に連絡してほしいとの要望があった。

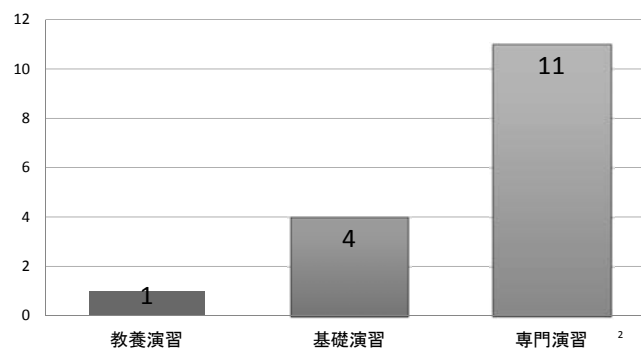
「演習科目の改善のためのアンケート」

平成27年 3月 2日
現代教養コース教育指導担当者会議

1

演習科目の改善のためのアンケート

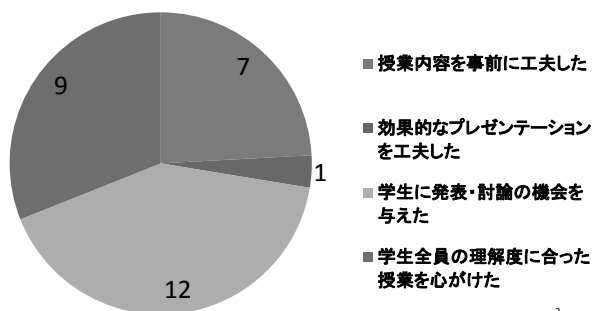
・担当された科目名 (教養演習・基礎演習・専門演習)



2

演習科目の改善のためのアンケート
1. 学習指導面について

1, 学習指導面で工夫したことは何ですか？



3

演習科目の改善のためのアンケート
1. 学習指導面について

1, 学習指導面で工夫したことは何ですか？(1)

- ・ 演習としてはあり得ないほど人数が多かったので、複数回報告できるよう、進行を工夫した。
- ・ 卒論への導入となる専門演習だったので、データ処理の仕方など、卒論での具体的な作業をイメージしやすい内容とした。
- ・ 授業内で問いを呈示し、学生の意見・発見によって組み立てる授業内容を行った。
- ・ 昨年度は原子力災害を題材にした内容をメインにしたが、今年度は経済学の入門的レベルの教科書を使い、広く深く、オーソドックスな学習を行った。
- ・ 背景の異なる学生が混在していたことや、大学生活に不慣れであることから、ゼミ中に時間を取り、仕事への接し方や大学に対する考え方を聞いて相互に意見交換をする機会を設けた。また、懇親行事(ボーリングや会食会)を開いてゼミ交流を図った。

4

演習科目の改善のためのアンケート
1. 学習指導面について

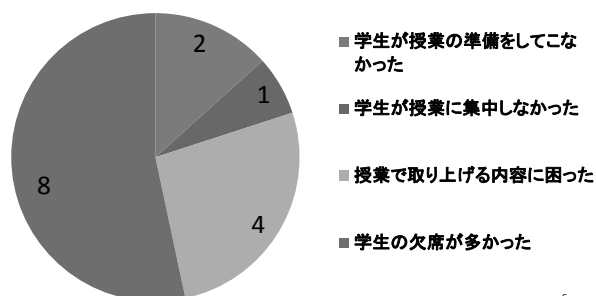
1, 学習指導面で工夫したことは何ですか？(2)

- ・ 5限、6限に設定し、学類の卒論生と一緒にゼミを行った(社会人学生が5限に出席可能というを確認した上で)。卒論指導という点では、学類学生の指導と何ら変わりはない。
- ・ 1名なので対話形式で卒論の準備を進めていきました。
- ・ スポーツ、スポーツにおける運動・動作を対象に授業を進めているため、理解をしていない様子はいくつかある。しかし、今後卒論を執筆するにあたって十分に力を発揮できるかどうかは心配である。
- ・ 人数が28名と多く、全員が発言の機会を得るという点では限界があると思います。
- ・ 専門演習もそうですが、コースの垣根をこえて演習の選択ができるとよいのではないかと思います。
- ・ 指導学生が一人であったため、学生同士の学び合いができるように、学習内容の発表などでは、可能な場合には学類の卒論指導学生と交流する機会を設けた。

5

演習科目の改善のためのアンケート
1. 学習指導面について

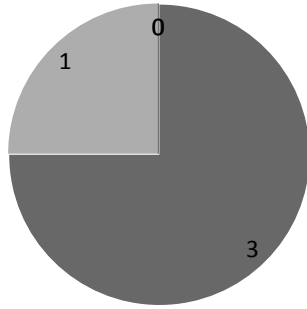
2, 学習指導面で苦労したことは何ですか？



6

演習科目の改善のためのアンケート Ⅰ. 学習指導面について 2, 学習指導面で苦勞したことは何ですか？(1) 「学力」は言うまでもなく、「興味」や学生としての「自覚」に関しても学生間でバラつきが激しいと改めて感じました。現代教養コースという制度の本質的欠陥と考えておりますが、毎回、テーマやレベル設定について必要以上に氣を使いました。 - なかなか討論までいかない。 - 学生の学びたい分野が多岐にわたりすぎているので、共通の話題が少なすぎる。 - 教養演習で学びのリテラシーについてほとんどやってこなかったと言っていたので、学類における教養演習で行ったリテラシー教育を中心に授業を展開した。 - 当該分野にまったく興味のない学生は、なかなか授業内での問いを自分のこととして考えにくかったのではないかと心配があった。 - 若い学生と年長学生との格差が非常に目立ち、議論の水準に格段の差がある。とはいえ年長学生も経済学の知識が特にあるわけではなく、経験的なレベルにとどまる。 - とくにありません。専門演習履修の三名は、積極的でこちらが圧倒されるくらいです。 7	演習科目の改善のためのアンケート Ⅰ. 学習指導面について 2, 学習指導面で苦勞したことは何ですか？(2) - 希望する学習内容に本人の取り組みが追いつかないところがあった。 - 学生の仕事と学習との両立が難しかった。 - 年上の社会人の方の意見の発信力が強く、積極的に意見を述べてもらったことで演習が停滞せずにいられたという利点もあったが、それにともう影響力も強く、皆の意見が引っ張られる傾向があったため、発信者への配慮を行いながら全体調整することにはやや苦勞した。 - 社会人学生は問題なかったが、高卒学生たちの遅刻・欠席が多く、特に無断での遅刻・欠席が目についた。注意はしたが最後まであまり改まらなかった。 - 就職活動が最優先になるのは致し方ないことで、先月就職が決まってやっと一息という感じ。これから頑張ってほしい。 - アルバイトで忙しい学生がいて、その学生は欠席が多く対応に困っている。 - 参加態度はたいへんよいと思います。 - 希望する学習内容に本人の取り組みが追いつかないところがあった。 8										
演習科目の改善のためのアンケート Ⅰ. 学習指導面について 3, 学習指導面に関して、どのような課題がありますか？(1) 「現代教養コース」を今後も存続させると本気で考えるのならば、入試制度も含めた根本的な見直しが必要課題と思われます。 - モデル選択のためのオリエンテーションで、基礎演習の授業内容の説明を依頼された(事務方より)。しかしあるべき姿はモデル選択である。このオリエンテーションで説明すべきはモデルの説明であり基礎演習の授業のことではない。それぞれのモデルに進むとどのようなことを学ぶことができるのかという話をすべきである。モデル選択オリエンテーションのあり方を考え直す必要がある。(他のモデルから来られた教員も自分が行う基礎演習の内容に終始していた。) - 学生によって、レポート作成能力にばらつきが大きい。ある程度の長さや主張を盛り込んだ文章が書けない。 - 学生との連絡の仕方。ライブキャンパスだけでは欠席・休講の連絡などが行き渡らず個別のメールで働きかける場面が多々あった。 - 学生個々人の問題関心や知識のレベルをある程度詳細に把握して指導する必要があると感じる。 - 個人的な関心にまで引き寄せて議論するのが効果的だろう。 9	演習科目の改善のためのアンケートⅡ. 学習指導面について 3, 学習指導面に関して、どのような課題がありますか？(2) 2コマ続きの授業なので、1コマ分は自分の発表準備のための時間になっているが、図書館が使えないことを学生が不満に思っていたり(これは仕方がないと説得して図書館が使えないことを学生が不満に思っていたり(これは仕方がないと説得しています)、勉強する場所がないと言ってます。学生会館が使えなくなって、夜に勉強できる空間がないそうです。 - 仕事との両立がスムーズにいくよう、学生の状況を把握しておくことが必要であり、そのためのコミュニケーションをしっかりとることがさらなる課題である - 夜間主という特徴をあまり考えずに、昼と同程度に「大学」であることを求める学生が一定数おり、そうした意識から生じる不満を持つ学生に接した。一方で、夜間主の対象とする社会人であることにに対する配慮を求める声も聞こえ、両者の調整をしながら講義を構成することのむずかしさを感じた。 - 学類生が取っているような専門概説科目をまったく受講しないまま、オムニバス科目のなかの私の担当部分(現代教養科目の数時間や3年次専門演習の1コマ)を受講しただけで、卒論テーマを決めたり、卒論を書いたりするのは無理がある。 3年生の時の指導教員が転出して代理だったので、やりにくさはあった。また、教育学でどの程度の水準を要求すべきなのかはむづかしい。教師になるわけでも免許を取るわけでもないのに。 - 今後卒論を執筆するにあたって十分に力を発揮できるかどうかがか心配である。 - カリキュラムの系統性が課題としてあるように思います。 - 報告のさいの調べものが圧倒的にインターネットに偏っていて、紙の書籍を参照する学生はごく少数です。										
演習科目の改善のためのアンケートⅡ. 学生生活上の指導について 1, 学生生活上の指導で工夫したことは何ですか？ <table border="1"> <thead> <tr> <th>工夫した点</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の相談に常に耳を傾けた</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>できる限り、学生の様子に気を配った</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>学生の不適切な言動を正した</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>積極的に学生に話しかけるようにした</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> 11	工夫した点	回数	学生の相談に常に耳を傾けた	7	できる限り、学生の様子に気を配った	11	学生の不適切な言動を正した	10	積極的に学生に話しかけるようにした	0	演習科目の改善のためのアンケートⅡ. 学生生活上の指導について 1, 学生生活上の指導で工夫したことは何ですか？ - 仕事をもっていることを前提に話をしたり、その仕事に関わるようなテーマを話題にしたりした。 - 普段構内に頻繁に会う機会が少ない学生なので、授業前後に近況や授業への意欲などをインフォーマルに訊くことを心がけた。 - 仕事のことなどを共通の話題にするように心がけた。 - 飲み会の方が大事だろうと思い、務めて機会を設けた。 - 遅刻・欠席の多い学生に対してはメールや口頭で何度か注意した。 1年生のゼミで担当した学生でその点やりやすかった。問題も全くなかった。 - 指導学生が一人であったため、帰属意識や仲間がいるという意識を持つことができるように、学類の卒論指導学生と授業内外で交流する機会を設けるように心がけた。一方で学類生とすべて同じというわけにいかないのが、配慮はしたつもりだが、そのような部分への対応は特に難しく感じた。 12
工夫した点	回数										
学生の相談に常に耳を傾けた	7										
できる限り、学生の様子に気を配った	11										
学生の不適切な言動を正した	10										
積極的に学生に話しかけるようにした	0										

2, 学生生活上の指導で苦労したことはなんですか？



- 学生の相談にどう対応すべきか迷った
- 学生の様子が把握できなかった
- 学生が指導に耳を貸さなかった
- 学生との心の距離を感じた

13

2, 学生生活上の指導で苦労したことは何ですか？

- ・ 相談に来れば、その範囲では事情をつかめるのだが。
- ・ クラス9名で結果として3名休学。1名は最初の授業に来て、その後休学と事務より言われた。2名は面談を複数回行った。初めて基礎演習を担当したが、現代教養コースはこんな感じなのかなあと。
- ・ 授業に出ている学生は非常に意欲があり、授業を行いやすかった。
- ・ ほとんど欠席の生徒はお手上げで、メールで声をかける以上のことはしていない。
- ・ 就職で苦労している学生へのアドバイスは特にできなかった。
- ・ 他の授業で、30分近く遅れてくる先生がいたり、休講の掲示がなく、メールだけで、それを見ることができなくて学校に来てしまったりと、授業を行う上での最低限のマナーを守らない先生についての不満を学生が言うときに、どう対処していいかわからなかった。苦しい言い訳をしたが...
- ・ 学生生活上に問題を抱える後期から引き受けた学生に関しては、LCや教務の呼び出しなどを通じて接触を図ったものの、欠席が続いており、生活上の指導効果を得られていない。
- ・ アルバイトで忙しい学生の様子が把握できなかった
- ・ 学生の体調不良が理由で準備などに支障が出ることが多いと感じた。

14

3, 学生生活上の指導に関して、どのような課題がありますか？(1)

- ・ 形式的とは言え現在教養コースの対象が「社会人」である以上、敢えて“生活指導”に余力を割きませんでした。そもそも一般社会人の生活を“指導”できるほど立派な生活をおくっている訳ではなく、かつその能力も有しておりませんので。
- ・ 修学の目的が非常に明確な学生も居るし、非常に曖昧な学生も居る。両者のバランスを取りながら対応していくことが難しい。
- ・ 大学に来なくなった学生の面談時、非常に深刻な内容も多く、対応に苦慮した部分もあった。
- ・ 進路や生活について学生が教員と面談できる機会がもう少しあればよいのにと感じるがありました。(専門演習とりまとめの私がすべきことかどうかかわからずやや戸惑う場面があったため)
- ・ 少々プライベートなことまで含めて、学生の個人情報をつかんで、丁寧に指導する必要があると思うが、こちらにそこまでの余裕がないのも現実。

15

3, 学生生活上の指導に関して、どのような課題がありますか？(2)

- ・ 専門演習については特にない。しかしながら、文化教養モデルは他のモデルと異なり履修学生数が少ないので、専門演習の時間は半分でもよいのではないかと思う。
- ・ 学類ゼミ生との関わりがもてなかったという反省がある。両者の関わりを作っていくことが課題である。
- ・ アルバイトで忙しい学生に対し、どのような対応のしかたをしたら良いか。難しい課題です。
- ・ 個人情報の問題もありますが、自己紹介レベルの個人カードを用意すべきだと思います。
- ・ 学生の知的水準や知的好奇心のレベルの差が大きく、熱心な学生とそうでない学生の差がかなりある。

16

2014（平成 26 年度）

現代教養コース卒業生アンケート報告書

<目次>

あなた自身のことについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 頁

1 週間の活動時間について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 頁

大学入学後の知識・能力の変化について・・・・・・・・・・ 7 頁

世代をこえた交流の経験について・・・・・・・・・・・・・・ 14 頁

グラフ編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16 頁

I. あなた自身のことについて伺います。それぞれ、該当する番号に○をつけてください。

<概要>

- ・ 所属モデル、性別は表の通り。
- ・ 出身校高所在地について、55.7%が県内高校出身、県外については 34.4%が東北地方であり、約 90%の出身校高所在地が東北地方である。
- ・ 入試形態について、36.1%が推薦入試、50.8%が社会人特別入試であり、編入・学士入学は 9.8%。
- ・ 今後の進路について、45.9%が「新たに職を求めたい」としており、その他（自由記述：19.7%）でも何らかの形で就職と回答している。院進学は 3.3%、専門学校入学は 1.6%である。

- ・ あなたの所属モデルの番号に○をつけて下さい。

所属	度数	パーセント
文化教養モデル	16	26.2%
法政策モデル	6	9.8%
コミュニティ共生モデル	17	27.9%
ビジネス探究モデル	20	32.8%
未回答	2	3.3%
合計	61	100.0%

- ・ あなたの性別について

性別	度数	パーセント
男性	32	52.5%
女性	26	42.6%
未回答	3	4.9%
合計	61	100.0%

- ・ 出身高校の所在地について

出身高校所在地	度数	パーセント
福島県内	34	55.7%
福島県外（東北地方）	21	34.4%
それ以外	4	6.6%
未回答	2	3.3%
合計	61	100.0%

- ・ どのような入学試験を受けて入学したかについて

入学試験区分	度数	パーセント
推薦入試	22	36.1%
社会人特別入試	31	50.8%
編入学・学士入学	6	9.8%
未回答	2	3.3%
合計	61	100.0%

・ 今後の進路について

今後の進路	度数	パーセント
新たに職を求めたい	28	45.9%
福島大学の大学院に進学する	2	3.3%
専門学校に入学する	1	1.6%
現在の仕事を続ける	6	9.8%
転職する	3	4.9%
まだわからない	6	9.8%
その他	12	19.7%
未回答	3	4.9%
合計	61	100.0%

・ その他の内容

民間企業に就職

就職（7名）

新卒で入社する（3名）

テニスコーチのバイト

Ⅱ．（全学共通設問）大学入学からこれまでをふり返って、お答えください。

【1 週間の活動時間についてお聞きします。】

- ・ 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。各項目の当てはまる番号に一つ〇をつけてください（4年間の平均として、おおまかな時間をお答えください）。

<概要>

- ・ 授業や実験等への出席は、6－15 時間に過半数（54.1%）が回答している。1－5 時間との回答が 19.7% である一方、16－20 時間以上との回答も 23% 存在する。
- ・ 授業外学習時間は 1－5 時間以下が 85.2% である。
- ・ オフィスアワー、部活や同好会参加等、大学に居る時間は短く、アルバイトや仕事については過半数（52.5%）が 20 時間以上と回答している。
- ・ 読書、趣味活動、資格取得のための勉強については、比較的バラツキが大きい。

1. 授業や実験等に出席する

	度数	パーセント
全然ない	1	1.6%
30 分未満	0	0.0%
30 分－1 時間	0	0.0%
1－2 時間	3	4.9%
3－5 時間	9	14.8%
6－10 時間	13	21.3%
11－15 時間	20	32.8%
16－20 時間	7	11.5%
20 時間以上	7	11.5%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

2. 授業時間外に予習、復習、宿題をする（グループワーク活動を含む）

	度数	パーセント
全然ない	4	6.6%
30 分未満	8	13.1%
30 分－1 時間	8	13.1%
1－2 時間	21	34.4%
3－5 時間	11	18.0%
6－10 時間	4	6.6%
11－15 時間	2	3.3%
16－20 時間	0	0.0%
20 時間以上	2	3.3%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

3. オフィスアワーなど授業時間外に教員と接する

	度数	パーセント
全然ない	25	41.0%
30分未満	22	36.1%
30分－1時間	4	6.6%
1－2時間	5	8.2%
3－5時間	1	1.6%
6－10時間	1	1.6%
11－15時間	0	0.0%
16－20時間	0	0.0%
20時間以上	2	3.3%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

4. 部活動や同好会に参加する

	度数	パーセント
全然ない	38	62.3%
30分未満	1	1.6%
30分－1時間	0	0.0%
1－2時間	3	4.9%
3－5時間	3	4.9%
6－10時間	6	9.8%
11－15時間	3	4.9%
16－20時間	2	3.3%
20時間以上	4	6.6%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

5. 大学外でアルバイトや仕事をする

	度数	パーセント
全然ない	4	6.6%
30分未満	0	0.0%
30分－1時間	1	1.6%
1－2時間	0	0.0%
3－5時間	3	4.9%
6－10時間	4	6.6%
11－15時間	7	11.5%
16－20時間	6	9.8%
20時間以上	32	52.5%
未回答	4	6.6%
合計	61	100.0%

6. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

	度数	パーセント
全然ない	7	11.5%
30分未満	10	16.4%
30分－1時間	10	16.4%
1－2時間	9	14.8%
3－5時間	12	19.7%
6－10時間	6	9.8%
11－15時間	2	3.3%
16－20時間	0	0.0%
20時間以上	3	4.9%
未回答	2	3.3%
合計	61	100.0%

7. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

	度数	パーセント
全然ない	1	1.6%
30分未満	2	3.3%
30分－1時間	4	6.6%
1－2時間	12	19.7%
3－5時間	11	18.0%
6－10時間	7	11.5%
11－15時間	7	11.5%
16－20時間	5	8.2%
20時間以上	11	18.0%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

8. 就職や資格の取得にかかわる勉強をする

	度数	パーセント
全然ない	7	11.5%
30分未満	9	14.8%
30分－1時間	11	18.0%
1－2時間	16	26.2%
3－5時間	9	14.8%
6－10時間	3	4.9%
11－15時間	2	3.3%
16－20時間	2	3.3%
20時間以上	1	1.6%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

【大学入学後の知識・能力の変化についてお聞きます。】

- 以下の設問は、約4年間の大学での学習に関して、皆さんにどのような変化があったかを聞くものです。大学入学時と比べて、以下に挙げる「学習態度、力、知識等」は身につきましたか。各項目の当てはまる番号に一つ○をつけてください。

<概要>

- 授業の重要なところのノート、パソコンでの文書・資料作成、インターネットでの情報収集、レポート、一般的な教養については、「かなり身についた」、「ある程度は身についた」の割合が高い。
- 図書館で資料・文献を調べる、意見と事実の区別、問題発見、意見・情報の受け止め方、科学的・数量的に物事を見る、自分の意見の表現、質問できる、人間関係形成、多角的・総合的思考、学問的思考の基礎、健康や運動に関する科学的認識、グローバル課題への関心、地域的課題への関心、外国語能力、異文化理解、リーダーシップ、プレゼンテーション、学習習慣、学習計画力、自律的な行動、キャリアへの関心と行動、専門知識、世代をこえて人と関わる力については「あまり身につけていない」、「まったく身につけていない」の割合が高い（「あまり身につけていない」の割合が10%以上を基準とした）。

1. 授業の重要なところを理解しノートする

	度数	パーセント
かなり身についた	14	23.0%
ある程度は身についた	37	60.7%
あまり身につけていない	6	9.8%
まったく身につけていない	0	0.0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	2	3.3%
未回答	2	3.3%
合計	61	100.0%

2. 図書館等で資料・文献を調べる

	度数	パーセント
かなり身についた	16	26.2%
ある程度は身についた	26	42.6%
あまり身につけていない	12	19.7%
まったく身につけていない	2	3.3%
すでに入学時からあり特に伸びていない	2	3.3%
未回答	3	4.9%
合計	61	100.0%

3. パソコンで文書・資料を作成する

	度数	パーセント
かなり身についた	27	44.3%
ある程度は身についた	27	44.3%
あまり身につけていない	3	4.9%
まったく身につけていない	0	0.0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	3	4.9%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

4. インターネットで情報を集める

	度数	パーセント
かなり身についた	33	54.1%
ある程度は身についた	22	36.1%
あまり身につけていない	1	1.6%
まったく身につけていない	0	0.0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	3	4.9%
未回答	2	3.3%
合計	61	100.0%

5. 定められた形式に従ったレポートが書ける

	度数	パーセント
かなり身についた	23	37.7%
ある程度は身についた	31	50.8%
あまり身につけていない	5	8.2%
まったく身につけていない	0	0.0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	1	1.6%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

6. 自分の意見と事実を区別して書ける

	度数	パーセント
かなり身についた	19	31.1%
ある程度は身についた	29	47.5%
あまり身につけていない	10	16.4%
まったく身につけていない	0	0.0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	2	3.3%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

7. 物事の問題点を見つける

	度数	パーセント
かなり身についた	15	24. 6%
ある程度は身についた	34	55. 7%
あまり身につけていない	9	14. 8%
まったく身につけていない	1	1. 6%
すでに入学時からあり特に伸びていない	1	1. 6%
未回答	1	1. 6%
合計	61	100. 0%

8. 意見や情報を鵜呑みにせず受け止める

	度数	パーセント
かなり身についた	16	26. 2%
ある程度は身についた	33	54. 1%
あまり身につけていない	9	14. 8%
まったく身につけていない	0	0. 0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	2	3. 3%
未回答	1	1. 6%
合計	61	100. 0%

9. 科学的・数量的なものごとを見る

	度数	パーセント
かなり身についた	6	9. 8%
ある程度は身についた	26	42. 6%
あまり身につけていない	25	41. 0%
まったく身につけていない	3	4. 9%
すでに入学時からあり特に伸びていない	0	0. 0%
未回答	1	1. 6%
合計	61	100. 0%

10. 自分の意見を筋道立てて表現する

	度数	パーセント
かなり身についた	13	21. 3%
ある程度は身についた	36	59. 0%
あまり身につけていない	10	16. 4%
まったく身につけていない	1	1. 6%
すでに入学時からあり特に伸びていない	0	0. 0%
未回答	1	1. 6%
合計	61	100. 0%

11. 先生や学生仲間にしっかり質問ができる

	度数	パーセント
かなり身についた	11	18. 0%
ある程度は身についた	32	52. 5%
あまり身につけていない	16	26. 2%
まったく身につけていない	1	1. 6%
すでに入学時からあり特に伸びていない	0	0. 0%
未回答	1	1. 6%
合計	61	100. 0%

12. 自分から人間関係をつくる

	度数	パーセント
かなり身についた	20	32. 8%
ある程度は身についた	26	42. 6%
あまり身につけていない	12	19. 7%
まったく身につけていない	1	1. 6%
すでに入学時からあり特に伸びていない	1	1. 6%
未回答	1	1. 6%
合計	61	100. 0%

13. 一般的な教養

	度数	パーセント
かなり身についた	21	34. 4%
ある程度は身についた	33	54. 1%
あまり身につけていない	5	8. 2%
まったく身につけていない	0	0. 0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	0	0. 0%
未回答	2	3. 3%
合計	61	100. 0%

14. 多角的・総合的な思考

	度数	パーセント
かなり身についた	14	23. 0%
ある程度は身についた	34	55. 7%
あまり身につけていない	12	19. 7%
まったく身につけていない	0	0. 0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	0	0. 0%
未回答	1	1. 6%
合計	61	100. 0%

15. 学問的思考の基礎

	度数	パーセント
かなり身についた	10	16.4%
ある程度は身についた	34	55.7%
あまり身につけていない	15	24.6%
まったく身につけていない	0	0.0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	1	1.6%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

16. 健康や運動に関する科学的認識

	度数	パーセント
かなり身についた	13	21.3%
ある程度は身についた	28	45.9%
あまり身につけていない	16	26.2%
まったく身につけていない	3	4.9%
すでに入学時からあり特に伸びていない	0	0.0%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

17. グローバルな課題への関心

	度数	パーセント
かなり身についた	12	19.7%
ある程度は身についた	24	39.3%
あまり身につけていない	21	34.4%
まったく身につけていない	3	4.9%
すでに入学時からあり特に伸びていない	0	0.0%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

18. 地域的な課題への関心

	度数	パーセント
かなり身についた	20	32.8%
ある程度は身についた	29	47.5%
あまり身につけていない	7	11.5%
まったく身につけていない	3	4.9%
すでに入学時からあり特に伸びていない	0	0.0%
未回答	2	3.3%
合計	61	100.0%

19. 外国語の能力

	度数	パーセント
かなり身についた	1	1.6%
ある程度は身についた	16	26.2%
あまり身につけていない	19	31.1%
まったく身につけていない	20	32.8%
すでに入学時からあり特に伸びていない	4	6.6%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

20. 異文化の理解

	度数	パーセント
かなり身についた	7	11.5%
ある程度は身についた	26	42.6%
あまり身につけていない	18	29.5%
まったく身につけていない	7	11.5%
すでに入学時からあり特に伸びていない	2	3.3%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

21. 必要な場合のリーダーシップの発揮

	度数	パーセント
かなり身についた	9	14.8%
ある程度は身についた	21	34.4%
あまり身につけていない	24	39.3%
まったく身につけていない	5	8.2%
すでに入学時からあり特に伸びていない	1	1.6%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

22. プレゼンテーション力

	度数	パーセント
かなり身についた	4	6.6%
ある程度は身についた	37	60.7%
あまり身につけていない	17	27.9%
まったく身につけていない	2	3.3%
すでに入学時からあり特に伸びていない	0	0.0%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

23. 自ら学習する習慣

	度数	パーセント
かなり身についた	8	13.1%
ある程度は身についた	28	45.9%
あまり身につけていない	16	26.2%
まったく身につけていない	4	6.6%
すでに入学時からあり特に伸びていない	4	6.6%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

24. 主体的に学習を計画する力

	度数	パーセント
かなり身についた	11	18.0%
ある程度は身についた	24	39.3%
あまり身につけていない	16	26.2%
まったく身につけていない	5	8.2%
すでに入学時からあり特に伸びていない	4	6.6%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

25. 自らを律して行動できる力

	度数	パーセント
かなり身についた	12	19.7%
ある程度は身についた	26	42.6%
あまり身につけていない	16	26.2%
まったく身につけていない	2	3.3%
すでに入学時からあり特に伸びていない	4	6.6%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

26. 社会人としてのキャリアについての関心と行動

	度数	パーセント
かなり身についた	16	26.2%
ある程度は身についた	27	44.3%
あまり身につけていない	13	21.3%
まったく身につけていない	0	0.0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	3	4.9%
未回答	2	3.3%
合計	61	100.0%

27. 自分の専門に関する知識や理解

	度数	パーセント
かなり身についた	15	24.6%
ある程度は身についた	37	60.7%
あまり身につけていない	8	13.1%
まったく身につけていない	0	0.0%
すでに入学時からあり特に伸びていない	0	0.0%
未回答	1	1.6%
合計	61	100.0%

28. 世代をこえて人と関わる力

	度数	パーセント
かなり身についた	29	47.5%
ある程度は身についた	21	34.4%
あまり身につけていない	7	11.5%
まったく身につけていない	1	1.6%
すでに入学時からあり特に伸びていない	1	1.6%
未回答	2	3.3%
合計	61	100.0%

【世代をこえた交流の経験についてお聞きします。】

- ・ 現代教養コースに所属して、世代をこえた学生間での交流の機会がありましたか。

<概要>

- ・ 世代をこえた交流は「ひんぱんにあった」37.7%、「ときどきあった」50.8%となっている。
- ・ また、自由記述からは、世代をこえた交流について肯定的・有意義と感じていることが伺える。

世代をこえた交流の機会

	度数	パーセント
ひんぱんにあった	23	37.7%
ときどきあった	31	50.8%
あまりなかった	3	4.9%
まったくなかった	1	1.6%
未回答	3	4.9%
合計	61	100.0%

- ・ その他、世代をこえた交流を通じて得られたことがあれば、自由にご記入ください。

様々な価値観

大人の意見とは深いと思った。

年上の友人と話すことで、大学での学びや仕事、人間関係を築く上で参考になることもありよい刺激になった。
最終的に自分の2倍くらい長く生きている人との交流が一番多くなり世代は関係なく人間性(?)で一緒にいる人は決めるのだなと感じた。

年上の方との関わり方、適切な距離など

自身とは違う価値観が得られた。

体育をしたときに、体の話になり、痛い場所によって内蔵のどこが悪いかな等の知識を共有することができた。
やはり年上の方が言う事は正しい事が多いということ。

共通の何かがあれば皆一緒

物事を多方面から見ることを学んだ。

学生でありながら社会人の意見を聞けることはとても魅力的だった。

自分たちの年代にはない話や出来事を直接聞くことができた。

考え方の視野が広がった。

社会人として生きていく苦勞

様々な価値観と交流できました。

楽しかった

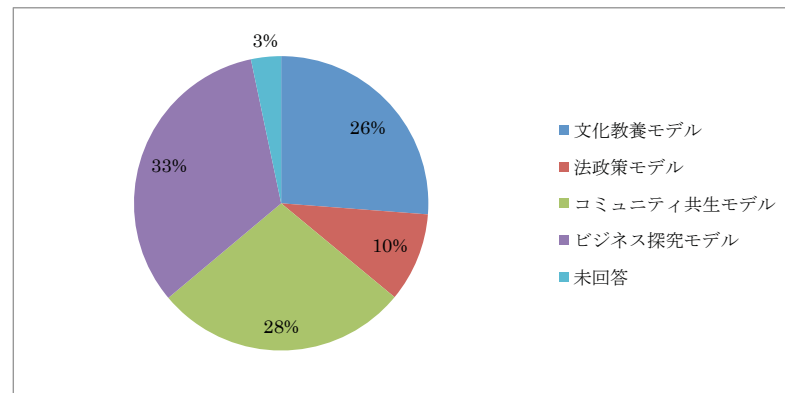
社会人との交流で色々な話が聞けた。

人生観が豊かになった気がする。

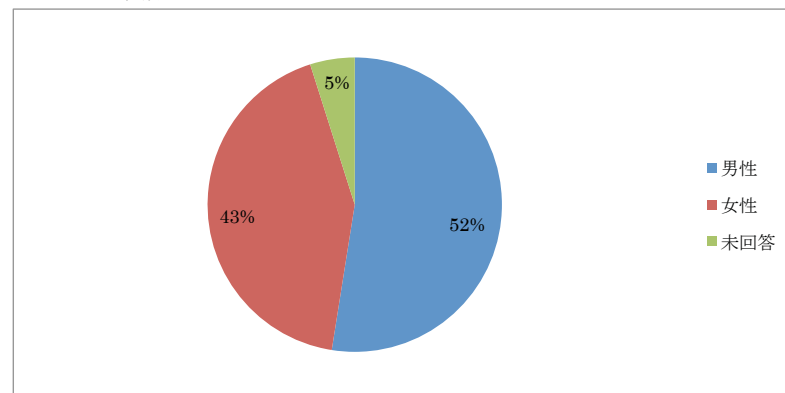
社会人の方々との交流は貴重な経験。大学は現教をもっと大きくアピールすべき。

I. あなた自身のことについて伺います。それぞれ、該当する番号に○をつけてください。

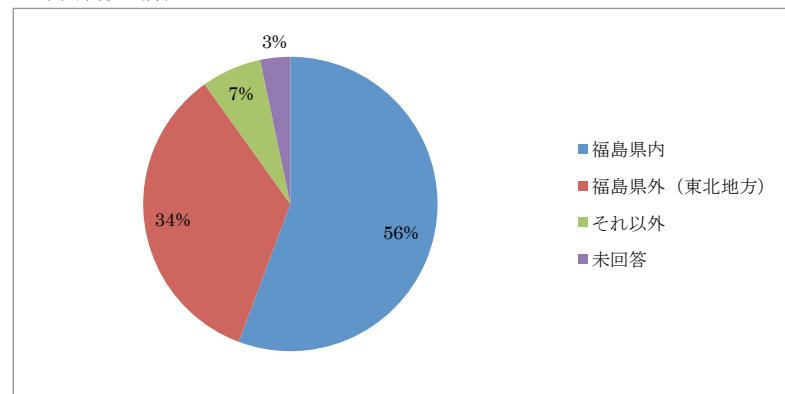
- ・ あなたの所属モデルの番号に○をつけて下さい。



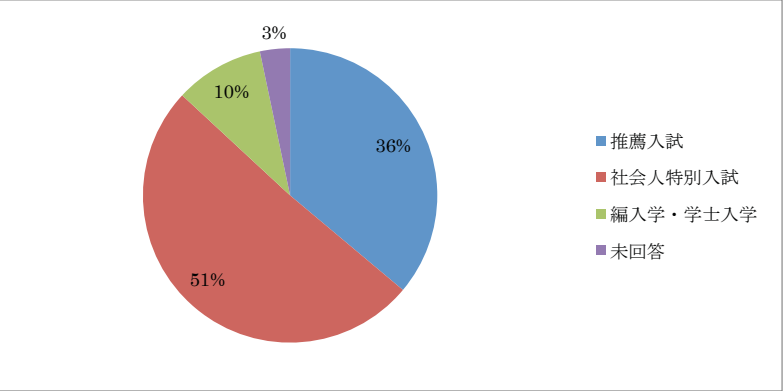
- ・ あなたの性別について



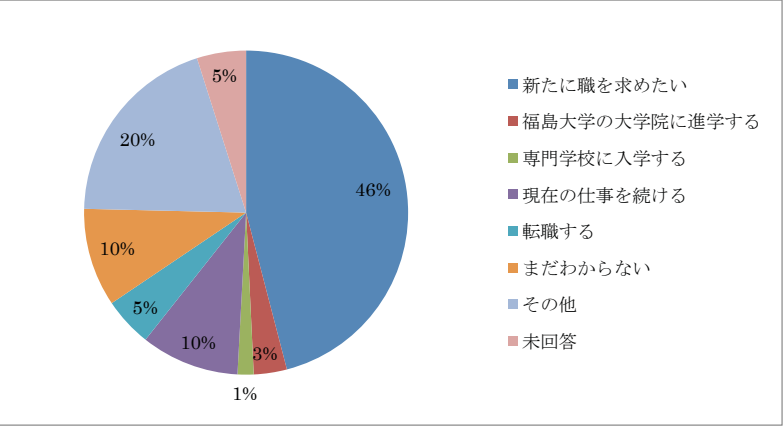
- ・ 出身高校の所在地について



・ どのような入学試験を受けて入学したかについて



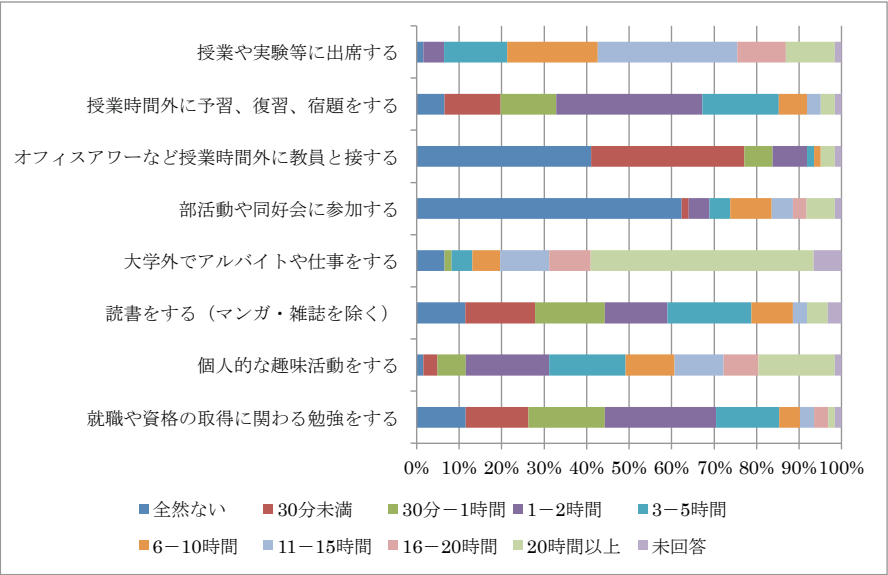
・ 今後の進路について



Ⅱ.（全学共通設問）大学入学からこれまでをふり返って、お答えください。

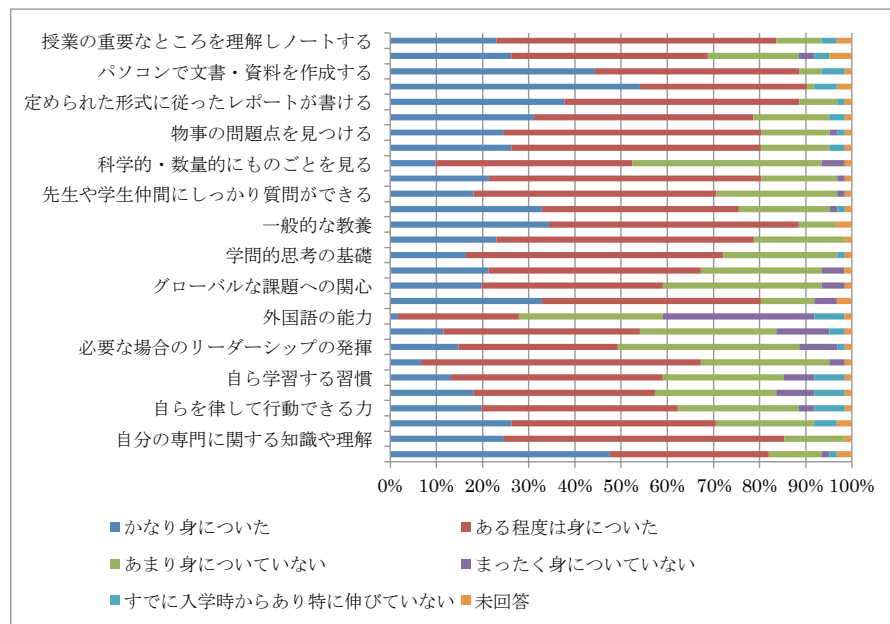
【1週間の活動時間についてお聞きます。】

・ 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。各項目の当てはまる番号に一つ〇をつけてください（4年間の平均として、おおまかな時間をお答えください）。



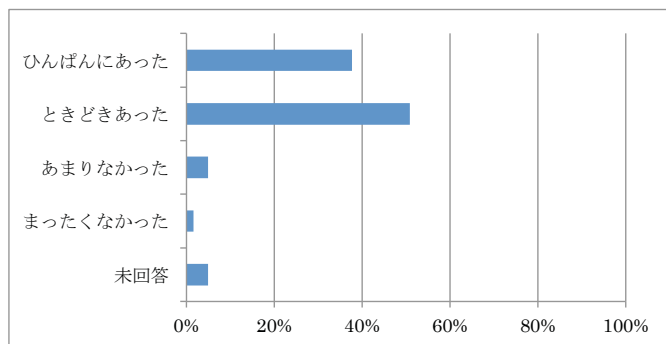
【大学入学後の知識・能力の変化についてお聞きます。】

- 以下の設問は、約4年間の大学での学習に関して、皆さんにどのような変化があったかを聞くものです。大学入学時と比べて、以下に挙げる「学習態度、力、知識等」は身につきましたか。各項目の当てはまる番号に一つ〇をつけてください。



【世代をこえた交流の経験についてお聞きます。】

- 現代教養コースに所属して、世代をこえた学生間での交流の機会がありましたか。





6.共通教育におけるFD活動

共通教育におけるFD活動

※FD 報告書掲載のため一部を抜粋

平成26年度前期開講

「総合科目・広域選択科目」担当者懇談会（報告）

— 平成26年8月 —

教育企画委員会
共通教育委員会

＜報告構成＞

1. はじめに ～懇談会を終えて 1p
2. 担当者懇談会のお知らせ（開催案内） 2p
3. 分野・科目毎（コメント・出席者毎） 4p～64p
 - ① シラバス
 - ② 担当者コメント
 - ③ 懇談会メモ
4. 受講者数一覧 65p

～ 3. 分野・科目毎（コメント・出席者毎） ～

＜人間と文化＞				
文学Ⅱ	月1	高橋 由貴		4p
精神保健Ⅰ	水2	渡辺 厚		8p
心理学Ⅰ②	木1	木暮 照正		11p
＜社会と歴史＞				
政治学	水2	荒木田 岳		15p
ジェンダー学入門	水2	高橋 準		18p
市民と法	木1	中里 真		21p
歴史学Ⅰ	木1	三宅 正浩		24p
社会論	金2	橋本 摂子		27p
経営学	金2	中村 陽人		31p
＜自然と技術＞				
環境の科学Ⅰ	月1	長橋 良隆		34p
環境の科学Ⅱ	水2	永幡 幸司・後藤 忍		37p
		川崎 興太		
数学Ⅰ	金2	濱野 佐知子		41p
＜総合科目＞				
科学と技術の社会史	月1	岡田 努		44p
大学で学ぶ	月1	丸山 和昭		48p
水・土地の汚染と	水2	中馬 教允		53p
私たちの健康・生活				
災害復興支援学Ⅰ	金2	初澤 敏生		56p
ヒトのことばの仕組みと進化	木1	福富 靖之		61p

はじめに

—— 総合科目・広域選択科目の懇談会を終えて

現在、共通教育の見直し作業に着手したところです。ここ 10 年ほどのカリキュラムのねらいとしたところと、実際の成果との一致、あるいはへだたりを測るところから、はじめました。

見直し作業全体のなかで、総合・広域選択科目の講義科目群と英語科目とが議論の焦点となっています。ともにどのように見直しの議論をすすめるべきか、なかなかむづかしい科目です。そこでとりあえず総合・広域選択科目の担当者の皆さまにお集まりいただき、前期の授業の実際について、お話しいただく機会をもうけました。これは見直しにあたる委員にとってのみならず、担当者の皆さまにとりましても意義あることではないかと考えたからです。

皆さま多忙の折、少人数の集まりではありましたが、懇談会は充実したものでした。この小冊子は、その報告です。それぞれの科目に、学生アンケートの結果をそえることができましたならば、いっそう意義あるものとなったことでしょう。

参加していただきました皆さま、またメモを作成していただきました皆さまに感謝いたします。共通教育のいっそうの充実のために、ささやかではありますが大切な一歩をふみだせたものと考えております。

2014 年 8 月

神子博昭

【懇談会メモ】

分野名：人間と文化

担当授業：「文学Ⅱ」 高橋由貴

受講生 28 人、そのうち 4 人が留学生。

① シラバス作成時に、受講生について、どのようなイメージを抱いていたか。

人間発達文化学類の一・二年生は必修科目があるため、この科目は履修ができない。従って、多くが行政・経済・理工の 1～4 年次の学生か交換留学生である（人間発達文化学類の学生は、ほとんどが聴講のみ）。日本の近現代文学にふれるのはこの時間だけであるという想定のもとに、短篇小说のアンソロジー収録のテキストを 1 回につき一篇読み、明治期から平成までの小説を半期で 10 篇以上論じることを課している。本年度は近現代小説のアンソロジーを、昨年度は近現代詩の詩人ごとのアンソロジーを扱った。できるだけ多様な作家やジャンルの小説（あるいは隔年で詩人・詩を扱う）に触れて欲しいという目的から、幅広いラインナップの教科書を指定している。

② 当の授業のねらいはどこにあるか。

受講学生の半数以上が、「近現代小説」「近現代詩」といえば教科書採録のもの、あるいは書店の平積みのライトノベルやミステリーくらいしか目を通したことがない。そこで、本授業では、文学のジャンルやスタイルの中でもオーソドックスなものに触れる機会を設けている。文学史的な意味をもつ小説であることも配慮したラインナップとなっている。

また、「文学（史）」に堅苦しいイメージを持つ学生には、授業内で各々の小説と映画・ゲーム・テレビ番組に多くの接点を共有していることを示唆し、この授業と学生の日常とをつなげるものをテキストに選んだ。ある程度文学に親しみを持っている受講生には、小説の多様性や広がり在今后持つことができるような読書案内を施している。

③ そのためにどのような工夫を考えていたか、または実際に授業をしてみて、どのような工夫をしたか。

初回にコメントペーパーを提出してもらい、受講生の読書歴や興味あるメディアやジャンルや書名などをリサーチする。

小説テキストを読む順序は、まず現代の取り付きやすい文体とテーマのものからはじめ、講義が進むにつれて昭和・大正・明治と時代をさかのぼり、読みにくい文体や時代を隔てた主題の作品を読み深められるように誘導する形を採用している。

授業の流れは、最初の 10 分間で作者情報と同時代的背景と書誌情報を説明し、次の 10 分間でその小説特有の文体や修辞を確認、最後に 50 分程度でその小説内容について 3 つぐ

らの論点（3トピック）をあげて解説を行う。

授業終了後は、毎回コメントペーパーを記入・提出してもらう。それらに目を通し、次の講義の20分は、前回授業の学生コメントをもとに、出された疑問に答えたり、異なる観点や方法から作品をもう一度捉え返したり、もう一度内容をふりかえるといったフィードバックを行う。これら前回までの流れを踏まえて、今回取り上げる作品に進むという組み立てになっている。

受講生が30人程度なので、学生の傾向が把握できるため、その年の受講生のニーズや現在の興味に適合するような話題を選んでいる。

④学生は興味をもった様子か。

⑤ねらいは達成されたような気がするか。

小説にはあまりなじみのない学生ではあるが、少しでも興味をひけるように、本年度は13篇の近現代小説を扱った。

文学を専門としない学生にとっては、一週間に一度の講義であっても、まとまった長い文章を読むことはなかなか困難を伴う。とにかく読み切って講義に出席することを第1のねらいにし、自分なりに考えて文章を読み考えることができるようにする。まとまりのよい感想をもつというより、むしろ長い文章を読む訓練が中心である。受講生が普段興味を持っている日常生活で触れる文化・趣味と本講義の小説との接点が見いだせるようにしたいと思った。

そのうえで、たとえばその小説に対して学生から「つまらない」「意味がわからない」という感想がだされたとしても、その感想自体を取り上げて、どこからそのつまらなさが生じるのかを講義中で探り、解説するように心がけた。第2のねらいは、自力で読むだけではない面白さを解説によって提供することである。小説技術（レトリックや読解の際の有効な観点）や同時代的知識や文学理論を駆使し、授業に出席して解説を聴くことでしか理解できない「深さ」や「テクニク」について詳述している。

半期の講義終了時の試験は、A3用紙の表裏を埋めるくらいの記述量の論述問題（選択問題形式・3題）を課し、自らの力で長い文章をまとめ、論点を整理し、批評的に文章を読み理解し主張することができるように促している。これだけ長い分量と批評的な考察を書くことができるのは、大学時の文学系の授業終了時の達成であることを強調し、15回の講義について、受講生が身につけた能力や知識を可視化させている。

文学を読む経験が予想以上に有益であったという満足度の高い評価を得ていると思う。

⑥次回、再び授業を担当するときに、ひきつづき行いたいことはあるか。またさらに工夫したいことはあるか。

この授業で扱うテキストは、専門外の学生が多いということを踏まえて、より学生の関心をひきやすいキャッチーなテキストがいいのか、それとも文学史的な観点や教養を顧慮したテキストがいいのか、難易やバラエティについて毎年思案している。

【懇談会メモ】

分野名：人間と文化

担当授業： 「心理学Ⅰ(02)」 地域創造支援センター 木暮 照正

5年に一回のローテーションによる担当。今回の受講生は196人で、毎回180人くらい
の出席があった（毎回コメント票により出欠を確認し、出席点を配点していたため）。出席
配点は学生のコメントをチェックするという目的もあった。コメント用紙は講師が一枚ず
つ配ったが、その際、学生のノートのつけかたもチェックすることができた。

② ③ ④について

自分の知ったこと、感じたこと、考えたことを文章にしてみるということを重視した。
コピペによりできあがる見た目によりコメントやレポートは求めず、多少暴論であっても、
オリジナリティを重視した（このことは学生に対して授業中に何度か説明した）。

情報化社会である現代では、知識をもつだけでは価値はない（検索すればすぐに手に入
る）。それを他者に的確に伝えられることに価値がある。そのためには文章作成力が肝要に
なるであろう。

学生、とくに新入生は、講師にいわれたことはする。しかし肝心なのは、何かに対して
自ら関心をもつことではないか。この授業では、心理学という学問はきっかけに過ぎず、
むしろ学生たちに、何かに関心をもってほしいと訴え、働きかける場であった。今の学生
は高校を卒業するまでに、何かに対して強い関心というものをもたなかったのではないか、
と疑われる事案を数例経験した。

（問いかけ —— 文章を書くことは、最終的にはどこに向かうか。アンケートによれ
ば、卒論は意味あることだ、という回答がよく見られる。それはどういう意味なのか。た
とえば宮崎大学の方がいっていたが、卒論をしあげるのは、高等市民、市民としての教養
だという。卒論を書くことは、社会にでて役立つのか。また福島大学の目ざす教養は、ど
のようなものか。）

卒論では心理学をテーマに指導するが、少なくとも私の指導する基礎的な心理学の領域
の卒論を書くことが、そのまま社会に出て役立つということはないであろう。

【懇談会メモ】

分野名：社会と歴史

担当授業：市民と法 中里 真

受講生 73 人。

①シラバス作成時に、受講生について、どのようなイメージを抱いていたか。

行政学類の学生はとらない、人間、経済、理工学類の学生だけが受講する。これははじめからわかっていた。

②担当の授業のねらいはどこにあるか。

一般的な法学の知識を伝える。法学を専門的に理解することはもとめない。新聞を読んだりしたとき、理解を深める助けとなればよい。

③そのためにどのような工夫を考えていたか、または実際に授業をしてみて、どのような工夫をしたか。

一課でひとつのテーマをとりあげる。その回だけで、理解できるようにする。

図と例を多用する。

事柄と法とのつながりを意識させる。法と生活の接点を気づかせる。

④学生は興味をもった様子か。

⑤ねらいは達成されたような気がするか。

テストは、択一問題（60 点）と論述問題（40 点）。ほかに LIVE CAMPUS を使って 1 回テスト、8 割くらいの学生が回答。

いろいろな切り口をとりあげたので、そのどれかに学生一人ひとりに関心をもったようだ。相続、アルバイトの超過労働、契約など、自分にひきつけて法を理解することができたのではないか。

共通教育で学ぶのは、専門の基礎知識なのか教養なのか、ということに関していえば、専門の領域では基礎的な知識からさらに高度な知識へ、事柄と条文と判例の検討へとすすんでいくが、共通教育では、この事例はたとえば民法領域、あの事例はまた別の領域、といった区分けを知る程度、いうなれば公務員試験のレベルになるか。

【懇談会メモ】

分野名：社会と歴史

担当授業：「社会論」 橋本 摂子

受講生 163 人、毎回 100 人以上の出席。

③について

映像を利用、評判はよかった。

使用した映像は、「アイヒマン裁判」「エス（エクスペリメント）」。テーマとして官僚制とホロコーストをとりあげた。学生のなかには公務員志望者も多いかと思われたので。近代社会は、それ以前の社会とくらべて良くなったということを前提としたうえで、それでも病理がある。そのひとつが官僚制。またこれは、社会学、法学、政治学、倫理学など、様々な分野を横断するテーマでもある。

とちゅうで感想を一回書いてもらった。あとで受講者に紹介した。

さいごに論述式のテスト、自分の頭で考えていることを確認したかった。文章力のほうは大目に見る。

⑤について

一般教養というのは、これが話題になったとき、その話しに加われる、応えられる、その程度の知識をもつ、というくらいか。教養ということでさらにいえば、いま自分のやっていることを、もう少し大きな文脈のなかでとらえなおすことができる力ということになるか。

【懇談会メモ】

分野名：自然と技術

担当授業：「環境の科学 01」 **長橋 良隆**

1997 年から、火山と災害のテーマで講義を担当している。今年の受講生は 119 人。

①シラバス作成時に、受講生について、どのようなイメージを抱いていたか。

高校で地学を選択したものは受講生の 1 割くらいだろう。しかしそれは前提としていない。

②担当の授業のねらいはどこにあるか。

多くのひとに知っておいてもらいたいことを伝える。それは噴火の多様性である。

③そのためにどのような工夫を考えていたか、または実際に授業をしてみて、どのような工夫をしたか。

液晶プロジェクターの使用やユーチューブからの映像を利用。

④学生は興味をもった様子か。

メカニズムに興味あるひとは、映像に関心を示す傾向があり、将来起きることに関心のあるひとは、そのときどうしたらいいか、ということに目を向けることが多いようだ。

⑤ねらいは達成されたような気がするか。

4 回くらい小テストを実施、これは答え合わせをし、次の回、度数分布を示す。

期末テストは、穴うめ 2 割、記述式 2 割、さらに映像を見て、噴火の特徴を指摘させ、災害を予測させる。そしてもし自治体職員であったら、またその住民であったら、どうふるまうかを答えてもらう。

テストもそうであるが、この授業の目ざすことは、災害がおきたら自分で判断をしなければならない、ということを意識し、自分で判断できるように準備することである。

【懇談会メモ】

分野名：総合科目

担当授業：「災害復興支援学Ⅰ」

初澤 敏生

受講生 215 人、毎回 180 人くらいの出席。

①について

震災にたいする学生の関心は低くなってきている。いまの一年生は、たいてい、中学 3 年生の卒業式のときに震災にあっている。若いだけに、変化が早い。

②について

2011 年から 3 年以上たって、復興のあり方がかなりちがってきていることを知ってもらいたい。

③について

・「学びのノート」を利用しての、①教員から学ぶ、②自分で学ぶ、③友達から学ぶ、を意識させている。(毎回、授業の感想を書かせ、最後の授業時に互いに見せ合う)

④、⑤について

支援については理解があるが、支援の支えとなる専門的な研究、情報収集の方法などについては意識が低い。

⑥について

3 年たって学生の問題意識や関心の低下がはっきりしてきた。復興という点では前期の支援学Ⅰより、後期のⅡのほうが重要だが、学生は受講してくれるだろうか。

またこの授業は災害と復興についてひろく知ってもらいたいもので、実際の復興からすれば、実習が重要になってくる。その点でボランティア論や他の未来学の授業を、学生が受講するかどうか、そこが注目点になってくる。

この科目をもっと学生に根づかせようとするなら、授業内容を見直していくというのも方法のひとつだが、他方で必修化というやり方もあるのでは、という問いかけだが、必修化となると、これは大学全体が、この科目をどう位置づけるかの問題になる。

・講義を複数の F U R E 講師が担当するオムニバス形式で行っている。このため、講師間での授業内容の重複や、今後、授業内容の工夫が必要である。

【懇談会メモ】

分野名：総合科目

担当授業：「大学で学ぶ」 丸山 和昭

受講生 99 人。

①シラバス作成時に、受講生について、どのようなイメージを抱いていたか。

教養演習のほかに、学修の基礎的なスキルをさらに学びたいという学生を想定していた。実際の受講生は経済と理工の学類生がほとんどであった。

②担当の授業のねらいはどこにあるか。

高校と大学では学修について大きなちがいがある、ということを伝える。

学びのナビがどれくらい使えるか、ためしてみた。残念ながら、ほとんど使えなかった。

③そのためにどのような工夫を考えていたか、または実際に授業をしてみて、どのような工夫をしたか。

学びのナビの予習のほか、ワークシートを作成させ、自習してもらった。またグループワークをおこなった。

④学生は興味をもった様子か。

講義をきくだけでは、学生は退屈を感じていたかもしれない。学生同士、話しをさせると反応はよかった。学類の枠をこえて話し合えたことはよかったのかもしれない。

グループで相談してプレゼンテーションをおこなった。大学で学ぶ意義を高校生に伝えるというもの。これはよかった。ただグループ間の差は、やはりでてくる。

⑤ねらいは達成されたような気がするか。

伝える内容は少なかったと思うが、学生がものを考えるという点では、きっかけを与えることができたと思う。

対話中心で、学類をこえて互いに話し合える機会をもてたのは、学生にとってよかったのでは。

⑥次回、再び授業を担当するときに、ひきつづき行いたいことはあるか。またさらに工夫したいことはあるか。

学びのナビは文章をもう少し変える必要がある。また 15 回使用するという形式になっていない。

レポートの書き方は、もっと早めに教えたほうが、他の授業の役に立つかもしれない。
その他、教養演習の内容と重複するものがあるが、それはそれでいいだろう。

この科目では、福島にある大学ということで県内の他の大学のことをとりあげるのも、
今後やってもいいかもしれない。

【懇談会メモ】

分野名：自然と技術

担当授業：「環境の科学 02」

永幡幸司

受講生 103 人。

①について

受講生は①興味のあるひと、②楽に単位をとれそうだったひと、③あき時間だからうめたというひと、この三層くらいにわかれると予想していたし、実際、そうであった。

②について

環境について最低限知っておいてほしいことを伝える。そして人がいるところに環境があるということを意識してもらう。

③について

担当の 3 名の専門は、工学系、社会科学系、物理・心理学系と分野が異なる。3 人に共通する部分と、ちがいの部分とを、両方ともに授業で学生に示すにはどうしたらいいか、相談した。

④について

小さな器具、おもちゃを使った実験は好評であった。

学生にシートを作成させ、学生同士で交換、これは学生も楽しんでいたようだ。開放科目で理工学類以外の学生にきてもらいたいと思っているので、ここはそのための宣伝の場でもある。受講生が 50 人くらいなら、こうしたやり方でもっとうまくこちらの意図が伝わったかもしれない。それにたいして講義をきくだけのときは、学生は退屈していたかもしれない。ただどのような授業の形態にするかは、大学の共通教育の方針が大枠を決めることになる。

⑤について

身近な環境を意識し、どこに問題があるか、これからどのようにしたらいいか、考えてもらえればと思っていた。試験の答案をざっと見ると、原発やごみなどをとりあげているひとは、これまでによく考えていたようで、よく書けている。それにたいし、これまであまり考えていなかったであろうひとは、やはり、ひととおりのしか書けていないようだ。

⑥について

分野のちがう 3 人が話し合っただけで授業を組み立てるのは、いいことだ。文理融合とはいうものの、そうした科目が少ないなかで、この科目は一定の意味をもつ。

※FD 報告書掲載のため一部を抜粋

平成26年度後期開講

「総合科目・広域選択科目」担当者懇談会（報告）

— 平成27年3月 —

教育企画委員会
共通教育委員会

＜報告構成＞

1. はじめに ～懇談会を終えて 1p
2. 担当者懇談会のお知らせ（開催案内） 2p
3. 分野・科目毎（コメント・出席者毎） 4p～50p
 - ① シラバス
 - ② 担当者コメント
 - ③ 懇談会メモ
4. 受講者数一覧 51p

～ 3. 分野・科目毎（コメント・出席者毎） ～

＜人間と文化＞				
精神保健Ⅱ	水2	渡辺	厚	4p
文学Ⅰ	木1	井寛	充史	6p
心理学Ⅰ03	金2	高谷	理恵子	9p
＜社会と歴史＞				
地理学Ⅰ	月1	末吉	健治	11p
日本国憲法02	金2	阪本	尚文	15p
＜自然と技術＞				
数学Ⅱ	月1	中川	和重	18p
エネルギーの科学	水2	生田	博将	21p
生命の科学02	木1	小山	純正	23p
環境の科学03	金2	柴崎	直明	25p
＜総合科目＞				
プロフェッショナル論	月1	丸山	和昭	27p
囲碁の世界	月1	飯島	充男	31p
原子力災害と地域	水2	清水	修二	33p
NPO論	水2	牧田	実	35p
小さな自治体論	木1	千葉	悦子	37p
社会思想入門Ⅱ	木1	伊藤	宏之	39p
災害復興支援学Ⅱ	金2	初澤	敏生	41p
サイエンスコミュニケーター 形成論	金2	岡田	努	47p

はじめに

—— 総合科目・広域選択科目（後期）の懇談会を終えて

前期にひきつづき後期も、総合科目・広域選択科目担当の皆さまにお集まりいただき、お話しをきかせていただきました。この秋から冬にかけ、共通教育の当該科目群の見直しを議論しています折、わたしたち教育企画委員会のメンバーにとりまして、たいへん有意義な懇談会でありました。同時に、参加なさった皆さまにとりましても、お互いの授業の実際を知る機会となり、意味ある設定ではなかったかと、ひそかに自負しております。

懇談会に参加していただきました皆さま、またメモをおよせ下さいました皆さまに感謝いたします。とりわけ総合科目を担当なさっているヴェテランの皆さまの元気の良さには驚かされました。その後継者としてわたしたちも、少しでも学生たちにとり良い授業ができますよう、工夫を重ねてまいりましょう。

2015 年 3 月 神子 博昭